

A 語句と読み

- (1) 戦死者をとむらい、生き残った者を見舞う / 人心を集めるための行い
- (2) ことばをへりくだらせ、贈り物を手厚くする / 「幣」＝贈り物
- (3) しかるべき人物。賢士として推薦できる者
- (4) 宮中の雑用をする近侍の役人
- (5) 一年もたたないうちに / 「期す」＝期間を定める
- (6) おもむく / (急いで) 向かう・集まる

B 句法

- (7) 抑揚形 / 「Aすら且つ～、況んやBをや」
- (8) 価値の軽いものを挙げて、より重いものを強調する言い方 / 死馬(軽)→生者(重)
- (9) 反語 / 「豈に～や」＝どうして～か、いや～ない

- (10) 使役 / 「(人)をして～しむ」

C だれのことか

- (11) 燕の昭王(本人の自称)
- (12) 言ったのは郭隗。「隗」は郭隗自身
- (13) 昭王

D 口語訳

- (14) わたくしは、燕が小国であって、(齊に)報復するには十分でないことをよく承知している。
- (15) 死んだ馬でさえこれを買うのだ。まして生きている馬ならなおさらだ。
- (16) 一年もたたないうちに、千里の馬が三頭もやって来た。
- (17) どうして千里の道を遠いと思おうか、いや、遠いとは思わない。

E 内容・記述（解答例）

- (18) ①すぐれた人材を得て、ともに国を治めること。②その力で、斉に破られた先王の恥をすすぐこと。
- (19) 名馬を本気で高く買う君主だという評判を広め、生きた名馬を集めるため。(三十三字)
- (20) 死んだ馬の骨。たいした賢者でない自分をまず厚遇すれば、それが呼び水となって、自分よりすぐれた者（＝生きた千里の馬）が集まると考えた。
- (21) すぐれた人材が争うように燕へやって来たということ。(二十四字)
- (22) (1) 大事を成したいなら、まず手近な者（隗自身）から優遇せよ。(2) 言い出した者が、まず自分から実行せよ。

F 文学史

- (23) 『戦国策』（燕策）・『十八史略』
- (24) 燕の国／昭王

【現代語訳（全文）】

燕の人々は太子平を立てて君主とした。これが昭王である。(昭王は)戦死者をとむらい遺族を見舞い、ことばをへりくだらせ贈り物を手厚くして、賢者を招いた。郭隗に問うて言った、「斉はわが国の内乱につけこんで、燕を攻め破った。わたくしは、燕が小国で、とても仕返しできないことをよく承知している。それでも、すぐれた人材を得てともに国を治め、先王の恥をすすぐこと、それがわたくしの願いだ。先生、しかるべき人物を教えてほしい。自分でその人に仕えたいと思う。」

隗が言った、「昔の君主に、千金を使って近侍の役人に一日千里を走る名馬を求めさせた者がいました。(その役人は)死んだ馬の骨を五百金で買って帰りました。君主は怒りました。役人は言いました、『死んだ馬でさえこれを買うのです。まして生きている馬ならなおさらでしょう。馬はすぐにやって来ます。』と。一年もたたないうちに、千里の馬が三頭もやって来ました。いま王がぜひとも人材を集めたいとお思いなら、まずこの隗から始めてください。まして隗よりすぐれた者なら、どうして千里の道を遠いと思いませんか、いや思いません。」

そこで昭王は隗のために邸宅を建て直し、隗を師として仕えた。こうして、すぐれた人材が争うように燕へやって来た。